

町小だより

令和2年
8月3日
No. 651
御免町小学校

学級の成長

校長 藤井 聡

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な対応を余儀なくされた1学期でしたが、私にとっては、悪いことばかりではありませんでした。なぜなら、これまで出張して行っていた各種会議が、書面会議になったり、遠隔会議になったりしたために、学校にいる時間が何倍にも増えたからです。すると、子どもたちの様子や各学級の個性がより鮮明に、見えるようになりました。そこで、1学期の締めくくりに、私が目にした『学級の成長』について記したいと思います。

学級は、担任と子どもたちが紡ぎあげる、いわば『ドラマ』の連続によって成長を遂げていきます。それぞれの学級には、雰囲気というか、匂いというか、その学級ならではの空気が感じられるものです。『文化』と言ってもいいかもしれません。

この『文化』のレベルによって、子どもたちの学びのレベルも変化していきます。つまり、自分の子どもだけが単独で成長しているわけではなく、学級にいる他の子どもたちの成長とともに、自分の子どもの成長も促されているという見方・考え方が大切なのです。

学級文化の高いクラスでは、「より困難な道を選択して、今よりも成長しよう。」という雰囲気があります。先日、こんな光景を目にしました。・・・学習をした後の教室でのことです。学級担任が、子どもたちに向かって、教室内が乱雑なのでみんなできれいに片付けましょうと呼びかけました。すると、ある男の子が、「え～、面倒くさい。」と口にしました。もう一人の子も「俺が散らかしたんじゃないもん。」と続けました。よくあるやり取りです。そのあと、この担任は、子どもたちの手を止めさせました。そして、静かに座るように指示をしました。『担任の本気』を感じた子どもたちは、静かに担任を見つめ、話を聞きました。担任は、静かな口調で語り始めました。話の中身は、「どちらの道を選ぶか?」というものでした。子どもたちにも分かりやすい、平易な表現でしたが、困難な道を選択した後に訪れる清々しさや自己有用感の高まりについてのものでした。

この担任の話が終わった後、先ほどの二人がとった行動は素晴らしいものでした。黙々と片づけを進め、自分の周囲だけではなく、友達が散らかしたところまできれいにしていました。もちろん、他の子どもたちも同様です。みんな、笑顔で片づけに取り組み始めました。・・・校舎内を一巡した後、この学級に戻りました。すると、自分の席に座り、にこにこしながら、担任から褒められている子どもたちの輝く姿がありました。思わず、教室に入って、子どもたちの頭をなでました。

担任と子どもたちが紡ぎあげる、小さな『ドラマ』の連続によって成長を遂げていく学級の姿を目の当たりにし、嬉しく思いました。

結びになりますが、1学期も御支援・御協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

そして、皆様、御自愛くださいますようお願い申し上げます。